



# 大いちょう

平成30年11月30日  
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成30年度 No. 8

048(829)2737

## 日々の成功体験を

校長 並木昌和

ジングルベルの音と街の賑わいの中に何か、心せわしい思いの月を迎えます。「今年1年を振り返って」とか、「来る年は」といった会話が多くなるころです。

私は、日頃から子どもたち一人ひとりにもっと「自信」をもって欲しいと願っています。「自信」をもつには、成功体験が欠かせません。たいそうなことではなく、毎日の生活の中に成功体験があります。子どもが不安なことや心配なことを、一生懸命やったらうまくできた。頑張って拭いたらきれいになった、というレベルのことです。ややもすると、私たち大人にとっては些細なことに見えたとしても、子どもにとっては価値のある成功体験になると思います。私たち大人が、子どもの成功体験を支援していく必要があると思います。12月は1年間のまとめにしっかり取り組む時です。この時期は、日一日と慌ただしさが増してきます。慌ただしさにかまけて子どもたちの話を聞き逃しては成功体験に気づかずに過ごしてしまうかもしれません。慌ただしい時こそ、子どもの話を聞き、認め、誉め、自信を与えることが大切です。

終業式には、通信票を渡し、一人ひとりの成長の様子をお伝えします。この4ヶ月間、学習はもとより様々な行事を通して子どもたちは大きく成長しました。この成長のもととなった、子どもが頑張ったこと、出来るようになったこと、以前より伸びたこと等を認め、誉めてあげてください。もし、課題として残ってしまったことがあったら、どのようにしたらよいか親子で十分話し合い、次の成功体験につなげるようにしてあげてください。

2学期間学校そして子どもたちを支えてくださいました保護者・地域の皆様に深く感謝申し上げます。様々な思いを胸に1年を回顧するとともに、新しい年が、学校に、地域に、ご家庭に、そして子どもたちにとってすばらしい年であることを祈念いたします。

年の瀬は年の暮のことですが、「瀬」には、ふし（節）という意味があり、このことから「年の瀬」という言葉が生まれたとのこと。私たちは、昔から節目を大切にしてきました。子どもの成長の過程で「七五三」や「成人式」等の行事が行われますが、これらは、いずれも「節」を大切にする心の表われです。年の瀬には、一般にどの家庭でも家の中を片付けたり、大掃除をしたりして新しい年に備えます。このようなしきたりや生活習慣の根底には、子どもの健やかな成長を願う心や、新しい年を清々しい心で迎えようとする素直な心、澄んだ心があると思います。場を清める心は、今も私たちの生活の隅々に強く生きている心であるといえるでしょう。私の家では、大晦日の夜には、新しい下着・パジャマに着替えて寝ることが習慣でした。ある時、友人にこの話をしたところ、友人の家では、大晦日の夕食後、家族総出で風呂を始めとした水回りをピカピカに掃除をすることが習慣だったそうです。それぞれの家には新年を迎えるための様々な習慣があるようです。子どもたちには自分の家なりの新年の迎え方があり、意味があり脈々と続いていることがあることを学ぶことができることもこの時期ならではだと思えます。